

「デッキ待ち」の連呼は車掌削減の布石だ！

3月1日より車椅子業務の取り扱いが変更になった。それは、お身体の不自由なお客様が、新幹線乗車時に介助の申し出があった場合、駅係員は「乗務員が到着するまでに、デッキでお待ちいただく可能性があります、承知していただけますか？」と一言付け加えることである。

お客からすれば、切符購入時に出札で、または多目的室の電話予約時に、さらに改札口で、そして車椅子担当係員に三回も同じ事を言われる。何故そこまで、お客に「車掌対応が、できないかもしれません？」と連呼する必要があるのだろうか？

現実的には車椅子のお客に介助者が同行していれば、自分たちで席まで移動する。あえてデッキで待つ必要はない。車掌対応が必要なのは、目の不自由なお客様がお一人で乗車される場合。または、歩行困難で貸出車椅子のお客様が乗車される場合。発車時間僅少で指令に連絡できない場合などには「デッキ待ちしていただく可能性があります」係員はお客に話している。つまり必要に応じて、車椅子担当者は対応している。

会社は何故、この様な対応はするのか？それは近い将来に「車掌対応をやらない」ことを見越してのことだと言える。

3月ダイヤ改正で車掌の車内検札の一部が無くなることに伴い、今後において車掌の要員削減が予想される。今回の対応はそのための布石ではないのか？

